

令和 7 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 明善 高等学校

<p><b>スクール・ミッション</b> (本校の存在意義や社会的役割を目指すべき学校像)</p>	<p>「高い志と世界的な視野を持ちグローバルリーダーとなる人材を育成する学校」 充実した理数教育をはじめとするハイレベルな教育活動を展開し、地域や大学、研究機関等と連携した探究活動及び体験活動、海外との交流活動などを通して、日本及び世界の発展に寄与しようとする高い志を持った人材を育成します。</p>	<p>(1)理想を追求して未知の難題に挑む意欲や、実践的な知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力を育成し、未来を切り拓く力を養う。 (2)自由と責任を重んじ、他者を思いやる態度や、国際社会の平和や環境保全に貢献しようとする姿勢を育む。 (3)望ましい職業観・労働観を育み、生涯学び続ける姿勢や地域や世界に貢献する豊かな人間性を育成する。 (4)【理数科】数学・理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決する力や実践的な応用力を育成する。</p>
<p><b>スクール・ポリシー</b> (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<p>(1)基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得と質の高い授業や評価を通して、ICTを活用した確かな学力の向上と深い学びを実現する。 (2)主体的に課題を発見し、他者と協働的に解決する思考力・判断力・表現力を育成するためのカリキュラム・マネジメントを確立させ、全ての教育活動において探究型学習の展開を図る。 (3)開かれた学校を目指し、地域との連携を図りながら、キャリア教育を充実させ、高い志と確かな価値観を持つグローバルリーダーを育成する。 (4)学校への帰属意識を高め、他者への配慮を重んじつつ自他を認め合う共感的な人間関係を築き、人権尊重の精神を育み、いじめ撲滅に資するとともに、豊かな人間性を培う。</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<p>(1)基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得と質の高い授業や評価を通して、ICTを活用した確かな学力の向上と深い学びを実現する。 (2)主体的に課題を発見し、他者と協働的に解決する思考力・判断力・表現力を育成するためのカリキュラム・マネジメントを確立させ、全ての教育活動において探究型学習の展開を図る。 (3)開かれた学校を目指し、地域との連携を図りながら、キャリア教育を充実させ、高い志と確かな価値観を持つグローバルリーダーを育成する。 (4)学校への帰属意識を高め、他者への配慮を重んじつつ自他を認め合う共感的な人間関係を築き、人権尊重の精神を育み、いじめ撲滅に資するとともに、豊かな人間性を培う。</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<p>(1)中学校段階での学習において十分な学力が身に付いており、学習意欲が旺盛であり、理解力に優れ、将来に対する明確な目的意識を持つ人 (2)主体的に課題を発見し、他者と協働して解決しようとする人 (3)部活動、生徒会活動等で活躍でき、リーダーシップを発揮することができる人 (4)【理数科】数学や理科に強い興味・関心を持ち、課題を自ら発見し解決に向け探究する姿勢がある人</p>

学校運営計画(4月)

学校運営方針	年度重点目標	具体的目標	評価(総合)
<p>○昨年度は行事の実施について、コロナ前に戻すことができたが、海外研修や校外研修については、訪問先の変更等があることから、教育効果を更に高める工夫をしながら生徒の視野を広げるための諸活動を推進していく。 ○体育館・武道場等の工事期間中は、教育活動への影響ができる限り少なくなるように、様々な工夫を行う。 ○課題研究等の探究活動を軸として、「明善探Q発表会」を更に充実させることで、生徒に各教科の関連を一層深めさせ、表現力を育成する取り組みを更に充実させる。 ○生徒が人間性を高め、基本的な生活習慣を確立するよう的確な支援を行う。</p>	<p>ICTを活用し、学力向上を目指した学習環境の整備と質の高い授業の提供 探究活動や学校行事を通じた主体的な学びと想像力の育成 文武両道で確く個性を育む多様な教育環境の提供 特別支援教育を含めた生徒の安全・安心のための学校運営と学校内外の連携強化 心身ともに逞しく健全な生徒を育て、生徒の自立を促す教育の実践</p>	<p>生徒の学力向上を目指し、ICTを活用した学習環境を整備し、教師の研修等を通して質の高い授業を提供する。また、個々の学習状況を把握し、理解度に応じた効果的な手立てを行う。 探究活動ではグループワークや調査活動で主体的な学びを促進し、学校行事では生徒に企画運営を任せてリーダーシップや協力を学ばせ、創造力を育む体験型活動を支援する。 「文武両道は可能である」という認識に立ち、授業と部活動のバランスを取るため、適切な指導とサポート体制を強化し、生徒がそれぞれの才能を伸ばしながら充実した学校生活を送れるよう支援する。 生徒の心身の健康を確保するため、専門家等との連携をさらに強化し、特別な支援が必要な生徒の心身の健康にも十分配慮する。また、定期的な避難訓練や安全指導を実施、地域社会や保護者との協力体制を築き、安全・安心な学びの場を提供する。 少々の困難にも負けず、心身ともに強く健全な生徒を育てるため、大らかな気持ちで、柔軟な教育を展開し、生徒の自立を促す教育を実施することを目指す。</p>	<p>A</p>

自己評価

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)	結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務課	<p>生徒の「表現力の育成」に繋がる職員の授業改善を推進する。</p>	<p>デジタル採点システムの普及を進め、採点時間を削減する。 定期考査において、考えや解答に至る過程等を文章や式で記述する問の出題を徹底する。 各教科で研究授業を実施し、研究協議会で意見交換することで、各教員の教科指導力の向上につなげる。</p>	<p>定期考査におけるデジタル採点システムの利用率(2学期期末)59.7%</p>	<p>B B A</p>	<p>デジタル採点システムの利用率が、考査実施科目に対して6割程度となった。定期考査以外の利用が多く見受けられる。特に、実力考査では多くの科目でデジタル採点システムを活用しているため、普及を進めることで採点時間を削減し、記述式の問の出題率を高めた。</p>	A	ICTとAIを生徒の学びの向上につながるよう研究を続け、効果的な活用がさらに促進されるよう期待したい。
	<p>生徒の「主体的に学習に臨む態度」を育成する。</p>	<p>生徒が自らの成績の向上や課題を感じ取れるよう、教務規定で示す基準に合った考査問題の作成を徹底する。 出欠の記録や学習時間調査の結果の分析及び職員間の共有を迅速化する。 学年教務を中心に出欠や学習時間に関しての指導を実施する。</p>	<p>2学期までの皆勤率37.6%(R6.35.2%,R5.32.3%) 2学期期末までの各科目の考査平均点の平均63.7 標準偏差7.1</p>	<p>A A A</p>	<p>定期考査の平均点の標準偏差が0.5ポイント小さくなり、適切な難易度の問題作成ができていたと考える。また、学年集会用に利用した指導等により、皆勤率も学校全体として2.4ポイント改善した。遅刻、早退の人数についても改善できる方策を検討したい。</p>	A	
探究推進課	<p>生徒が自ら課題を発見し解決する過程を通して、主体性と創造力を育成する。</p>	<p>「総合的な探究の時間」の充実のため、系統的な計画を設計する。 多面的視点で問題を捉える力を育成するため、教科横断型学習の研究開発を推進する。 探究活動が円滑に実施、活性化されるように支援体制を整える。</p>	<p>探究活動に関わる意識調査(対象1、2学年生徒)において、特に数値が低かった項目 ●独自のものを創り出そうとする姿勢(独創性) 一次向上した+やや向上した(2年計64.8%、1年計70.7%)</p>	<p>A B A</p>	<p>昨年度、考査不足の発表が見られるとの指摘を受け、本年度は考査演習の機会を多めに取り入れた。しかしながら、課題に添った演習を進める形式になったため、独自性を出す場面が少ないと感じた生徒がいたようだ。バランスを考えたい。次年度の2学年の計画は3年次も含めた系統的な計画を立てねばならない。教材開発も含めて課全体で考えていきたい。また、探究におけるAI活用についても他校の実践を参考にしながら議論していきたいと考える。</p>	A	総合的な探究の時間を含めて学校の教育活動全体で探究的学びが行われるよう工夫と改善をお願いしたい。
	<p>探究活動で身に付けた資質・能力をもとに自分の考えを発信する力を育成する。</p>	<p>各種発表会を通じて学習活動の成果を発信し、外部評価を受ける。 貢献活動として科学者の卵講座を実施し、活動の成果を地域へ普及させる。 理数科、科学系部活動の研究向上のための支援体制を構築する。</p>	<p>成果発表会アンケート(対象全生徒)において、身に付いた力として数値が高かったものの①探究テーマに対する知識・理解②結果をまとめて考察し、結論を導く方法/科学者の卵講座については、「次回また参加したい」が94.1%であった。</p>	<p>A A A</p>	<p>成果発表会では考察力が身に付いたと考える生徒が前年度より増えた。この点は良かったと思われる。また、外部評価として九州大学の田中將己先生から大変鋭いご指摘をいただいたことは教員も大変勉強になった。科学者の卵講座においては、保護者からは会場の狭さ、説明生徒の声の小ささ等の指摘があった。更に質を高めるために、早い段階から構想を練っておきたい。</p>	A	
庶務課	<p>各種行事・式典について、早めに計画・立案し、円滑な運営を行う。また、関係諸機関との連絡・調整を密に行う。</p>	<p>来賓への案内、会場との打ち合わせなど各種準備に早めに取りかかり、関係各方面との連携を密にする。 同窓会との連携を密にし、創立記念講演等を円滑に実施する。 保護者会との連絡を密にし、保護者会行事(総会・学年別保護者会・研修会等)を円滑に実施する。</p>	<p>保護者会役員アンケートより「保護者会からの提案を取り入れ、学年別保護者会の名称や、懇親会の案内を工夫してもらいありがたかった。そのかきもあり、参加者が増えた。」</p>	<p>A A A</p>	<p>保護者会や同窓会の方々にもご協力いただき、諸行事、諸会議を滞りなく運営することができた。今後も関係各方面の協力を仰ぎながら、円滑な行事運営を目指していく。</p>	A	今年度、保護者会が生徒会の活動を支援するなど保護者会との新たな連携ができた。また、同窓会の協力によってキャリア教育を効果的に行うことができた。今後も保護者会、同窓会等との連携を強化し学校教育の充実を図ってほしい。
	<p>体育館、武道場の改築等を踏まえて、各種行事・式典の運営・内容について検討する。</p>	<p>体育館の改築により式典会場が校外となることを踏まえ、関係分掌と連携しながら早めに内容・実施方法等を検討する。 必要なものとそうでないものを区別し、不要なものは縮小もしくは廃止する。 より円滑な行事運営ができるよう、昨年度の実績や反省をもとに、内容・実施方法等を検討する。</p>	<p>創立記念講演会時の生徒アンケートより「講演を聞いて、これからの人生において自分がどんな人になるか、真剣に考えられたと思う」</p>	<p>A B B</p>	<p>体育館改築工事に伴う校外(主にシティプラザ)での式典については少しずつノウハウが蓄積できた。一方、同改築工事に伴う教室棟を使用している各種行事(保護者会総会、学年別保護者会、合格者説明会など)については、今年度の反省をもとに必要に応じて内容・実施方法等を見直し、よりよい形を模索していく。</p>	A	
情報課	<p>教員のICT活用指導能力の向上及び生徒のICT活用能力向上を目指す。</p>	<p>教員向けの研修を実施することによりICT活用指導能力の向上を図る。 授業や講座でICT機器等を活用することで生徒のICT活用能力の向上を図る。 ICT支援員との連携や業務支援を有効に活用し、各々の能力の向上を図る。</p>	<p>ICT活用アンケート ①ほぼ毎日活用する37% ②週3日以上24%</p>	<p>A A A</p>	<p>今年度は生成AIの使用手法等についての研修をICT支援員を講師として実施し、生成AIの理解を深めることができた。次年度もニーズに応じた研修等を実施していきたい。</p>	A	全教室に電子黒板が配備され、また生徒一人一人も各自でタブレットを活用できるようになった。これらの機器が教育活動に効果的に活用されるよう期待する。
	<p>機器管理やシステム管理を行い、教員、生徒がICTを活用しやすい環境を整える。</p>	<p>日ごろより機器の管理を徹底するとともに、使用しやすい環境作りを努める。 各種システムを複数人体制で適切に管理・運用し、トラブルに迅速に対応する。 各業務でのデジタル化を図り、業務負担軽減を行う。</p>	<p>各家庭のWi-Fi環境調査 ①Wi-Fi環境がある99.6% ②大容量通信を契約している0.4%</p>	<p>B A A</p>	<p>電子黒板へのミラーリングを行う機器をすべての教室に設置し、ICT機器を活用した授業が展開し、使いやすい環境が整った。より効果的な授業となるように、次年度もデジタル環境を整えていきたい。</p>	A	

広報課	学校案内、広報紙「楽天」、HPの運用・管理などを通して、本校の教育活動を中学校や地域社会に積極的に発信する。	学校案内を早めに作成し、内容の充実を図る。	体験入学アンケート申し込み手続き等について苦情のコメントはない。	A	A	A	学校案内パンフレット、楽天、別冊楽天はどれも早めの準備が功を奏し、ミスなく作成できた。HPの発信については偏りがあり、来年度は改善したい。トップページの動画更新は簡単ではなく、来年度に持ち越した。	A	保護者から、部活動の試合結果など活動の状況をホームページから知りたいという希望がある。できるだけ更新できるようにお願いしたい。
		HPのトップページの動画更新と新着情報の活発な発信を行う。		B					
		学校紹介動画の活用、行事写真の記録・集約と活用を行う。		A					
生徒指導課	豊かな人間性と社会性を身に付け、主体的に行動できる生徒を育成する。	まごころの道明善で仲間と共に克己尽力できる配慮の心を養う。	「学校生活アンケート」『学校生活の中で信頼できる先生や友人がいますか。』への回答 4月 98.1% 10月 99.6% 高水準で維持している。	A	A	A	学校生活を通して、多くの生徒は信頼できる先生や友人を獲得することができた。しかし、特定の生徒に限り、依然として信頼できる先生や友人がいないと回答しており、それでも担任の先生、教科担当の先生や級友など、様々な人との関わりの中で、登校できている。この寄り添いの姿勢を大切に、生徒理解に努めていく土壌を継続して育てていきたい。	A	体育館の改築工事によって通学中や教育活動中に事故が起こることがないよう、安全管理に充分配慮していただきたい。
		いじめを許さないための判断力や実践力を養う。		A					
		自他の生命を尊重する態度を養う。		A					
保健課	社会貢献や配慮の精神を養い、豊かな人間性を育む。	美化週間の充実を図り、「整理・整頓・清潔・清掃(4S)」を推進する。	昨年度に比べ献血希望者は減少(昨年度42名、今年度36名)。	A	A	A	校内の清掃ボランティアだけでなく、民間のボランティア活動にも参加し、地域との交流を図ることができたことはとても良かった。	A	地域の清掃活動にボランティアとして取り組むことは地域と生徒にとってWIN-WINの効果がある。学校内だけでなく、学校外で学ぶという視点で様々な教育活動を検討してほしい。
		献血セミナーと献血を実施し、社会貢献の意識を高める。		A					
		生徒会、校友会と連携し掃除の会等のボランティア活動の充実を図る。		A					
進路指導課	校内模試・校内実力テストや課外授業で「確かな学力」を育成し、生徒の進路実現に繋げる。	生徒の進路実現につながる効果的な模試・実力テストの作成・実施・分析に努める。	課外受講率 1年96.4%、2年73.6%、 3年朝48.6%、放課後75.9%。 昨年度より受講率が上がる。	B	A	A	課外を通して学力の補充や基礎の徹底から高度な内容の学習指導を行うことができたので、継続して、課外授業や講座を実施する。模試や実力テストの分析は例年通りに実施できているが、より効果的なものになるよう手立てを考え、それを生徒に還元し、進路意識の向上につなげたい。	A	これからの生徒はイノベーションの力が要求される。想像力や新しいものを生み出す力を育てていただきたい。また、国公立大学2次試験でしっかり通用する記述力が身に付くよう、知識と思考力を育てる学びを継続していただきたい。
		確かな学力、深い学びにつながる課外授業や講座を行い、受講率出席率向上を目指す。		A					
		共通テストのデジタル出願等に柔軟に対応した進路指導を適切に行う。		A					
図書・研修課	「豊かな人間性」と「高い志」を育む、進路意識の高揚を図るとともに、自己指導能力を育成する。	大学セミナー等のキャリア教育により、進路意識や学習意欲を高める。	11月志望校調査 九州大学希望者 1年158名、2年140名、 3年108名。 医学部医学科志望者 1年28名、2年38名、 3年17名。	A	A	A	様々な進路行事において、例年通り充実した内容でキャリア教育を実施できている。それに加えて、医学講座を加えて、医学部志望者の進路指導を行うことができた。同様に、東大志望の進路指導を行うことも考えている。高い志の育成のためには、1・2年次からの進路指導を充実させていく必要がある。	A	グローバル社会において生徒が活躍するために、多様性を本質的に理解できるように人権教育の充実をお願いしたい。
		早期からの進路指導を通して、自ら進路を切り開く力を育み、高い志を育成する。		A					
		更なる飛躍を目指し、進路指導体制の充実を学校全体で取り組む。		A					
理数科	授業や探究活動の充実を図り、科学的に探究する能力を身につけさせる。	年間指導計画に則り、3年間を見通した教育内容の精選および見直しを行う。	人権教育授業後のアンケート ①人権課題についてよく理解できた 80% ②人権課題に直面した場合、どのように対応すべきか、よく考えることができた 80% ③他者と協働することがよくできた 81%	A	A	A	人権教育授業において、3年生は「進学・就職における差別」をテーマとして公正な採用選考について考えた。2年生は「同和問題」「東日本大震災における人権問題」を取り上げた。1年生は身近な人権問題として「ネットに関する人権問題」をテーマとして実施した。それぞれの学年の実態に即した内容を取り上げることができた。	A	理数科課題研究発表大会における研究の質の高さが際立っている。質の高い学習で世界をリードできる人材の育成を期待したい。
		学習指導案について、人権教育推進委員会、学年、図書・研修課で十分に協議する。		A					
		授業実施後のアンケート結果を分析し、次回の取り上げるテーマの精選に活用する。		B					
総合文科コース	コース独自の行事等を通して、豊かな人間性を持ったグローバルリーダーの資質を育む。	図書委員を中心に、朝読書(年4回)・読書会等を企画・運営する。	①図書館利用者数は令和6年度2721名、令和7年度(4~10月)4014名(うち授業利用1102名)約48%増(授業を除くと7%増) ②貸出冊数は令和6年度1334冊、令和7年度(4~10月)1329冊で昨年並み。	A	A	A	「朝読書」や「図書週間」「クラス読書会」の実施、「図書館だより」「図書館報」の発行等、図書委員を中心として、読書活動の推進を計画的に行うことができた。朝読書は、短い時間で、集中力や読解力、語彙力の向上、ストレスの軽減、想像力・発想力の育成など多岐にわたる効果が期待されるので、これからも継続していきたい。	A	キングスクールとの交流やベトナムへの海外研修など世界に触れる機会が充実しており魅力的な教育活動が行われている。
		「豊かな人間性」と「高い志」の生徒の育成に資する読書活動を推進する。		A					
		「図書館週間」を計画・実施する。		A					
総合文科コース	コース独自の行事等を通して、豊かな人間性を持ったグローバルリーダーの資質を育む。	探究活動を通して、主体的・協働的に課題解決に向かう姿勢を身に付けさせる。	生徒対象アンケート 主体的協働的に探究活動に取り組むことができた 「とてもそう思う」「そう思う」 97.2% 試行錯誤する力や思考力を高めることができた 「とてもそう思う」「そう思う」 94.4%	A	A	A	1年生では理数探究基礎を履修するように教育課程を変更した。教科書が導入され、生徒達が触れられる探究活動の事例が大幅に増えたことに加え、担当者間で教材の共有がしやすくなり、次年度以降も安定して探究活動を実施する枠組みを作ることができた。2年生の探究活動では生徒が主体的に探究活動に取り組んだ。教員のフォローによって、テーマの設定にかかる時間を短くし、実際の探究に充てる時間を増やしていった。	A	理数科課題研究発表大会における研究の質の高さが際立っている。質の高い学習で世界をリードできる人材の育成を期待したい。
		探究活動において試行錯誤を繰り返すことで思考力を高める。		A					
		様々な研究発表会に参加し、他者との議論や研究成果の発信を通して表現力を高める。		A					
総合文科コース	コース独自の行事等を通して、豊かな人間性を持ったグローバルリーダーの資質を育む。	学術研究や民間企業の専門職など幅広い分野で活躍する卒業生との対話を設定する。	生徒対象アンケート 現地に行くことでしか得られない知識や経験を得ることができた 「とてもそう思う」「そう思う」 94.5%	A	A	A	校内、校外ともに様々な分野の専門家と交流することで生徒の視野を広げることができた。生徒のアンケートを見ると、「卒業生と交流がしたい」「AIの分野について話が聞きたい」など様々な要望が見られる。生徒のニーズをしっかりと取り入れながらより充実した研修となるよう企画をブラッシュアップしていきたい。	A	キングスクールとの交流やベトナムへの海外研修など世界に触れる機会が充実しており魅力的な教育活動が行われている。
		視野を広げ、高い志を持って進路実現を目指すことに繋がる行事を実施する。		A					
		ICTを活用し、国際的に活躍する専門家と交流する。		B					
総合文科コース	コース独自の行事等を通して、豊かな人間性を持ったグローバルリーダーの資質を育む。	地域の歴史を学び、フィールドワークを行うことにより、郷土への愛着と理解を深める。	生徒対象アンケート結果 ・校外研修により教養を高め、視野を広げることができた。 ・「とてもそう思う」「そう思う」100% ・フィールドワークにより、歴史理解が深まった。 ・「とてもそう思う」「そう思う」100% ・国際交流を通して、多様な価値観を認めることができた。 ・「とてもそう思う」「そう思う」81%	A	A	A	コース独自の行事が学校全体としても対外的にも確立され、知られてきており、生徒たちの視野を広げる貴重な機会となっている。もともと生徒たちに、様々な事柄をどん欲に吸収しようとする態度が備わっているとも感じるが、校外学習や国際交流活動などを通して、自分の将来に係る大きな気づきを得られる生徒もいるようである。今後これらの行事を柱に総合文科コースの生徒たちに成長の機会を与えられればと考える。	A	キングスクールとの交流やベトナムへの海外研修など世界に触れる機会が充実しており魅力的な教育活動が行われている。
		校外研修等の行事を通して教養を高め、視野を広げる。		A					
		国際交流等を通して、言語活動を充実させ、多様な価値観を認め合う。		A					
総合文科コース	高い志を持った生徒の育成と進路希望達成のため、研修と授業を組織的に結びつける。	総合文科コース卒業生の講話により、自分の将来像を具体的に考えさせる。	卒業生講話に関する生徒アンケートより ・自分の将来像を具体的に考えるきっかけとなった。 ・「とてもそう思う」「そう思う」100% ・生徒のお礼の手紙や感想文により、様々な気づきがあり、動機づけにつながったことがわかった。	A	A	A	総合文科コースの卒業生による講話により、自分の将来を身近な問題として捕らえる機会となったと思われる。また、「グローバルレクチャー」と称して実施している講義では、職業や大学の学問を知ること、どのような学問を志し、仕事をどう選ぶか、どう生きて行くかなどを考えるとつながり、現在の学校生活や授業への動機づけに効果が得られていることがわかる。今後これらの行事を充実させていきたい。	A	キングスクールとの交流やベトナムへの海外研修など世界に触れる機会が充実しており魅力的な教育活動が行われている。
		大学教授等による講義を通して、様々な学問分野や職業について考える機会を増やす。		A					
		研修内容と授業の学びが繋がっていることに気づかせ、学習意欲を高める。		A					

第1学年	基本的な生活習慣を確立させ、心身に健全な生徒を育成する。	オリエンテーションや面談を活用し、高校生活へのスムーズな移行ができるよう支援する。	学校生活アンケート(生徒回答)で「信頼できる先生や友人在り」が4月には4%から10月は0.7%に減少。家庭用チェックリスト(保護者回答)で「悩んでいる様子で元気がない」(その他の記述を含む)と答えた割合は5%。	A	A	A	新入生オリエンテーションや連休・長期休業中明けの二者面談をとおして、生徒の課題を早期に把握し、支援を行うことができた。 1学期終了時における欠席・遅刻の数が、昨年度1年生より多かつたため、学年集会や朝礼・終礼を活用し、学年全体および学級単位で、学校を中心とした生活を送る必要性について指導を行った。次年度も引き続き、基本的な生活習慣を維持する指導が必要である。	A
		基本的な生活習慣を確立させ、遅刻・欠席を減少させる。		B				
		自主的な挨拶・清掃活動ができるようにする。		A				
第1学年	基本的な学習習慣を確立させ、確かな学力の礎を築く。	授業を中心とした学習スタイル(予習・授業・復習のサイクル)を確立できるようにする。	職業観育成講座後の生徒アンケートにおいて、「キャリアプランニング能力」が「高まった」56%、「自己理解・課題対応・人間関係形成などの能力」が「高まった」39%で、95%の生徒がキャリアに関する能力の高まりを感じている。	A	A	A	「職業観育成講座」や関東研修(希望者のみ)では、卒業後の進路について具体的に考える機会を設けることができた。また大運動会や文化発表会などの学校行事、総合的な探究の時間の探究活動についても、おおむね積極的に取り組むことができた。 次年度は、生徒会や学校行事の実行委員会に立候補する生徒を増やし、学校行事の運営に積極的な学年になるよう指導していきたい。	A
		「職業観育成講座」等の進路学習をとおして、高校卒業後の進路について具体的に考えることができるようにする。		A				
		探究活動や学校行事に積極的に参加させ、自主的に課題を発見し、解決に取り組むことができるようにする。		A				
第2学年	規律ある学校生活を送らせ、他者を思いやる豊かな人間性を養う。	明るく、楽しく、元気に学校を中心とした生活を送ることができるような指導をHR・学年集会等で行う。	・学校生活アンケート(生徒回答) 「信頼できる先生や友人在り」99% ・家庭用チェックリスト(保護者回答) 「悩んでいる様子で元気がない」0%	A	A	A	昨年度と同様に学年集会の機会を活用し、出席する大切さを生徒に伝えることができた。 次年度は最終学年となり、進路決定はもろろんのこと学校行事でもリーダーシップを発揮できる生徒を育成していく。また、社会に出てからの土台となる「配慮の精神」をしっかりと身につけられるよう、「周囲に目を配り、気づくことのできる生徒」を育てていく。	A
		元気な挨拶・掃除を励行し、学びの環境を整える。		A				
		「配慮の精神」を涵養し、集団の中で他者を尊重する態度を育てる。		A				
第2学年	高い志のもと、主体的に部活動や学校行事に取り組ませる。	総合的な探究の時間や学年行事等で進路意識を高揚させる。	・修学旅行の紀行文抜粋(生徒作成) 「今回の修学旅行で学んだことを絶対に忘れたくないし、自分が大切にしたいと思ったことをこれから大事にしていきたい。」	A	A	A	修学旅行では宮城での震災学習や東京での自主研修を通して、命の尊さや自主的・協力的態度を養うことができた。また、めいせんワールドや大学セミナーを通して、自らの進路について考える機会をつくることができた。 次年度はひとりの成人として必要なグローバルな視点を持てるよう進路指導を中心として充実させていく。	A
		修学旅行をとおして、自国を知り、グローバルな視野に立った将来像を考えさせる。		B				
		試行錯誤しながら学校行事に取り組む中で、リーダーシップの育成を図る。		A				
第3学年	自立した生活習慣を確立するとともに、進路実現を意識した学習習慣の確立を図る。	基本的な生活習慣を確立させ、安易な遅刻・欠席を減少させる。	・学校生活アンケート(生徒回答) 信頼できる先生や友人在り 99% ・家庭用チェックリスト(保護者回答) 悩んでいる様子で元気がない 2%	A	A	A	家庭学習時間調査や生徒との二者面談の結果、学習に関しては概ね充実した指導ができた。3年生2学期以降は、心身の健康面で不安な生徒に対して、個別の支援を学年全体で行った。また、学年会や模試分析会、志望校検討会などをとおして、教員間の情報共有や連携を深め、HR等での指導の質を高めることができた。	A
		授業や家庭学習を充実させ、確かな学力の育成を目指す。		A				
		二者面談、模試分析等を活用して進路実現に向けた見通しを確認させる。		A				
第3学年	進路意識や学力を充実させ、学校行事や部活動をおして人間性の育成を図る。	第1志望を最後まであきらめない指導を基本にする。	・進路希望調査 東大1人、京大19人、九大115人、医学科14人 第一志望が大きく変わることなく指導できた。	A	A	A	講演会や学年集会等での進路学習は充実していた。進路希望調査等の結果で、第一志望校を変えない指導はできたが、1年次から体系的な取り組みによって東京大学の志望者を増やす指導に改善が必要である。また、学校行事では3年生としての成長を感じる場面が多く、これまで主体的に学校生活に取り組んできた生徒たちの成果を肌で感じることができた。	A
		進路学習としてHRや講演会、学年集会等を効果的に活用する。		B				
		学校行事等で、3年生としてのリーダーシップを意識した行動をさせる。		A				
学校事務	経営参加型の事務室業務を推進する。	生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な予算の編成・執行を行う。		A	A	A	予算の執行状況を随時確認し、学校経営目標に沿った予算の編成・執行を行うことができた。生徒・保護者へも概ね的確に情報を発信することができた。次年度も継続して実施できるように努めたい。	A
		各分掌と情報の共有化を図り、学校経営目標が実現するための事務処理を行う。		A				
		生徒・保護者に対して、より分かりやすい内容で的確に情報発信する。		A				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用も含めて教科教育のさらなる充実を図り、生涯にわたって学び続け、日本や世界を舞台に活躍する人材の育成に継続して取り組む。</li> <li>学校行事など本校の特徴である教育活動を通じて人格の形成を図ることを目的とし、道徳心の育成に寄与できるようさらなる工夫を目指す。</li> <li>体育館及び武道場の改築工事が今後も継続するにあたり、生徒が事故に合うことがないよう安全管理体制の充実を図る。</li> <li>充実した広報活動を次年度も継続して行い、地域から見える学校として、地域から理解され信頼される学校であるために積極的な情報発信を行う。</li> <li>保護者会や同窓会との連携を深め、学校内部のみで完結しない効果的な教育活動について検討する。</li> </ul>
---

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	